

統計データから

果樹の主要品目における果実産出額について

我が国の果実の2024年の産出額は10,112億円で、農業総産出額の1割を占めている。

果樹の生産動向をみると、栽培面積や生産量は、近年、緩やかな減少傾向で推移している。栽培面積は2015年比の約90%、生産量は同約75%である。これは、高齢化が急速に進み、栽培農家数が同約77%と減少傾向にあること等による。生産量は戦後大きく増加し1979年にピークに達した後、現在ではその時の約36%にまで減少を続けている。

そのなかで、近年の国内の果実の産出額は増加傾向にある。2015年の7,838億円から2024年には約1.3倍増になっている。この背景として、①優良品種・品目への転換等により、消費者ニーズにあった高品質な国産果実が生産されるようになったこと、②人口減少等による需要の減少以上に生産量が減少していることから、卸売価格は上昇傾向で推移していることが考えられる。

表-1に果樹の主要品目について、産出額の大きい品目別に

並べた(2024年)。「ぶどう」(全体の21%)、「温州みかん」(19%)、「りんご」(19%)が果実産出額の約6割を占め、いずれの品目も1,800億円以上の産出額である。次いで、産出額700億円台の「日本なし」と「もも」(7%)が続く。表-1以外に、「西洋なし」96億円、「びわ」29億円、「パイナップル」27億円となっている。

なお、栽培面積では、「温州みかん」、「りんご」、「その他かんきつ」、「かき」、「ぶどう」、「くり」、「うめ」の順となり、いずれも1万haを超えている。収穫量では「りんご」、「温州みかん」、「日本なし」、「かき」、「ぶどう」、「もも」の順となり、いずれも10万t以上である。

今後、さらに果樹栽培農家や園地面積の減少の恐れがあるが、消費者ニーズを追い風とし、中山間地の重要な産業として、労働力の平準化や省力樹形といった労働生産性を向上させる栽培体系やスマート農業技術の開発・導入が求められている。

(K.O)

表-1 果樹の主要品目の産出額・栽培面積・収穫量(令和6年産)

品 目	ぶどう	りんご	温州みかん	日本なし	もも	その他かんきつ	かき	おうとう	うめ	くり	キウイフルーツ	すもも
産出額(億円)	2,145	1,945	1,877	754	725	586	462	401	258	114	111	109
産出額ベスト5	1 山梨県	青森県	和歌山県	千葉県	山梨県	熊本県	和歌山県	山形県	和歌山県	茨城県	愛媛県	山梨県
	2 長野県	長野県	静岡県	山形県	福島県	愛媛県	奈良県	北海道	群馬県	熊本県	和歌山県	長野県
	3 岡山県	岩手県	愛媛県	茨城県	長野県	和歌山県	福岡県	青森県	神奈川県	愛媛県	福岡県	山形県
	4 山形県	山形県	熊本県	長野県	岡山県	高知県	岐阜県	山梨県	山梨県	長野県	神奈川県	和歌山県
	5 福岡県	秋田県	佐賀県	島根県	山形県	鹿児島県	新潟県	長野県	長野県	兵庫県	群馬県	福岡県
栽培面積(千ha)	17.5	35.0	36.4	9.8	9.9	22.8	17.6	4.3	13.5	15.5	2.0	2.7
収穫量(千t)	165	609	560	173	110	・ ・ ・	167	12	52	14	21	16

注) その他のかんきつは、しらぬい(デコボン)、ゆず、ブンタン、ボンカン、なつみかん、いよかん、はっさく、日向夏、清見、カボス、きんかん、すだち、たんかん、ネーブル、オレンジ、セミノールを合計したもの。